



深谷大上ふれあいの家での「火曜喫茶店」は ぶらりと立ち寄ると誰かがいる所

深谷大上ふれあいの家の「火曜喫茶店」の3月の企画展は、3月4日（火）に“ひなまつり展”を催し、地域の幼児4名を含めて若いお母さんから高齢者までの76名の皆さんが来店して、楽しんでいました。

大上地区社協は、市から指定管理者として「深谷大上ふれあいの家」の管理運営を任されて4年が経過しましたが、この間の利用者は、初年度の平成22年度が5,214名で、続く23年度は6,006名、24年度は6,924名、25年度の本年度は2月末時点で7,142名が利用。特に深谷大上ふれあいの家は、休館日が年末年始の5日間のみで、年間360日にわたって当番者を置いて開館しています。そして毎週火曜日は「火曜喫茶店」として岩月理事が店長の任に当たり、“ぶらり立ち寄ると誰かがいる所”というように、皆さんが自由に来て、おしゃべりできる気軽に立ち寄れる場を作っているのが特徴で、岩月店長は“おしゃべりいっぱい、笑いっぱい”を標榜して運営しています。

そのような火曜喫茶店では、毎月趣向を凝らした企画展も催し、地域の皆さんの交流と共に地域の皆さんの趣味等を紹介する場としても人気を博しています。一方、地元の北の台小学校の児童も地域を知る授業の一環として来館して勉強するなど、教育の場としても大いに役立っています。



4月のパッチワークキルト展



7月の感動を描いた絵画展



9月の戦争と当時の生活展



11月の山歩きスナップ写真展



3月の楽しいひなまつり



2月の昔を振り返った昭和展



1月の児童にも人気のつるし雛展



12月の布で作った絵本展



入口の看板